国　語

国語科においては、単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図ることが求められています。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ることが大切です。

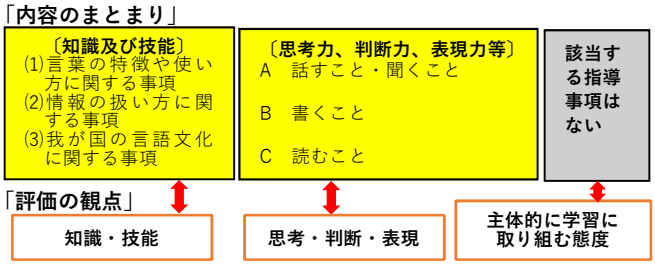
◆　「内容のまとまり」の考え方

国語科における内容のまとまりは、学習指導要領の「第２　各学年の目標及び内容」「２　内容」に次のように示されています。

〔知識及び技能〕
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項
(2) 情報の扱い方に関する事項
(3) 我が国の言語文化に関する事項
〔思考力、判断力、表現力等〕
A　話すこと・聞くこと
B　書くこと
C　読むこと

◆　内容のまとまりごとの評価規準の作成

①国語科における「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認します。



〔観点ごとのポイント〕

○「知識・技能」、「思考・判断・表現」の評価規準は、当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項を用いて作成します。
○「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面の双方を適切に評価できるよう、当該単元で育成する資質・能力と言語活動に応じて作成します。

②観点ごとのポイントを踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成します。

【〈第３学年の〔思考力、判断力、表現力等〕の「Ｂ書くこと」〉の評価規準の例】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。（(2)ア）	・「書くこと」において、目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えている。（Ｂ(1)エ）	・進んで文章全体を整え、今までの学習を生かして自分の考えを投書に書こうとしている。

文末を「～している。」にします。
指導事項の文頭に「領域名」を入れます。
文末を「～しようとしている。」にします。

◆　単元の評価規準の作成

国語科においては、例えば、次のような流れで授業を構想し、単元の評価規準を作成します。

Ｓｔｅｐ１
単元で取り上げる指導事項の確認
・年間指導計画を基に、単元で取り上げる指導事項を確認します。

Ｓｔｅｐ２
単元の目標と言語活動の設定
・指導事項を基に、単元の目標を設定するとともに、単元の目標を実現するために適した言語活動を位置付けます。

単元の目標
(1)「知識及び技能」の目標
(2)「思考力、判断力、表現力等」の目標
→(1)、(2)については、基本的に指導事項の文末を「～できる。」として示します。
(3)「学びに向かう力、人間性等」の目標
→(3)については、いずれの単元においても当該学年の学年の目標である「言葉がもつよさ～思いや考えを伝え合おうとする。」までを示します。
※〔知識及び技能〕に示す事項は〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して行うことを基本とします。

Ｓｔｅｐ３
単元の評価規準の設定
・「知識・技能」の評価規準の設定の仕方
当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔知識及び技能〕の指導事項の文末を「～している。」として作成する。
・「思考・判断・表現」の評価規準の設定の仕方
当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項の冒頭に、指導する一領域を「(領域名)において、」と明記し、文末を「～している」として作成する。
・「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の設定の仕方
以下の①から④の内容を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて、その組合せを工夫することが考えられる。なお、〈　〉内の言葉は、当該内容の学習状況を例示したものであり、これ以外も想定される。
①粘り強さ〈積極的に、進んで、粘り強く等〉
②自らの学習の調整〈学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等〉
③他の２観点において重点とする内容（特に、粘り強さを発揮してほしい内容）
④当該単元の具体的な言語活動（自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動）

Ｓｔｅｐ４
単元の指導と評価の計画の決定
・各時間の学習活動を構想し、どの段階でどの評価規準に基づいて評価するかを決定します。

Ｓｔｅｐ５
評価の実際と手立ての想定
・「Ｂと判断する状況」の例、「Ｃと判断する状況への手立て」の例を想定します。

国語科においては、指導事項に示された資質・能力を育成するため、基本的には「内容のまとまりごとの評価規準」が単元の評価規準になります。

◆ 学習評価に関する事例

1 単元名

「投書を書こう~多様な読み手を想定して文書全体を整える～」（全４時間）

2 内容のまとまり

第３学年　〔知識及び技能〕（２）情報の扱い方に関する事項、〔思考力、判断力、表現力等〕「B 書くこと」

3 単元の目標

(1) 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。〔知識及び技能〕(2)ア

(2) 目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)エ

(3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。　〔学びに向かう力、人間性等〕

4 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。（(2)ア）	①「書くこと」において、目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えている。（B(1)エ）	①進んで文章全体を整え、今までの学習を生かして自分の考えを投書に書こうとしている。

【POINT】
観点の評価規準に指導事項を示すことにより、学習指導要領の指導事項との関連を明確にし、指導と評価の一体化を図ります。

5 指導と評価の計画（単元の流れ）（4 時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○学習のねらいや進め方をつかみ、学習の見通しをもつ。 ○関心のある事柄から新聞の投書で伝えたい題材を決める。 ○伝えたい自分の意見と根拠、根拠に関連する具体的な出来事や事実をワークシートに書き、整理する。	・実際の投書をいくつか示し、学習の見通しをもたせる。 ・実際の投書を参考にさせ、伝えたい内容を考えさせる。 ・既習の「情報と情報との関係」について想起させ、意見と根拠、根拠に関連する具体的な出来事や事実を整理させる。	［知識・技能］① ワークシート **・根拠に関連する具体的な出来事や事実**
3	○教師が用意した投書を読み、投書にふさわしい表現について考える。 ○投書にふさわしい表現について考えたことを伝え合う。 ○読み手の立場に立って自分の下書きを読んで、投書を書くという目的に応じた表現になっているかを確かめ、気が付いたことをワープロソフトのコメント機能を用いて入力する。	・第３学年の「書くこと」で学習してきた文章の構成や表現の仕方などに着目させ、投書を書く目的や意図に応じた表現とはどのようなものかを考えさせる。 ・２～３人で共有した後、学級全体で共有する。 ・投書にふさわしい文章の構成や表現の仕方について共有したことを踏まえ、自分の下書きの表現を確かめさせるとともに、文章全体をどのように整えたいかを入力させる。	［主体的に学習に取り組む態度］① 下書き原稿 **・多様な読み手に自分の考えが分かりやすく伝わる表現の検討**
4	○前時に考えたことを基に、ワープロソフトの校閲機能を用いて推敲する。 ○推敲した文章を教師に提出し、希望者は清書したデータを投稿する。 ○単元の学習を振り返る。	・校閲機能を用いて、修正の跡を残しながら書かせる。 ・コメントや校閲機能による修正の跡が残っているデータを印刷して提出させる。 ・どのように試行錯誤したのかを振り返らせ、今後の学習でどのように生かしたいかを考えさせる。	［思考・判断・表現］① 推敲した文章 **・多様な読み手に自分の考えが分かりやすく伝わる表現**

【POINT】
例えば、本事例のように、単元の評価規準を踏まえて設定した**キーワード**により、「おおむね満足できる」状況（B）の例を具体的に想定し、評価することも考えられます。

【POINT】
実際に評価する場面では、表現を整えられたかどうかを見取るのではなく、自分の下書きを読み返して試行錯誤しながら表現を整えようとしているかどうかを見取り、必要に応じて生徒への指導を行って学習の改善を促します。

【POINT】
自分の学びや変容を自覚できるような「振り返り」を設定します。
「**本単元の学習**」で
・意識したこと
・身に付いたことやできるようになったこと
・課題を解決するために試行錯誤したこと
・今後の学習や生活に生かせそうなこと
など